

問われる大西市長の政治資金

「庁舎建設基本計画・基本実施設計」委託業者役員も「寄附」

2025年2月、熊本市は「新庁舎整備基本計画策定及び基本設計・実施設計等業務委託」を「日建・太宏共同企業体」と16億3,130万円でプロポーザルによる随意契約をしました。この契約で日建設計とJVを組む地元企業の住所で企業役員から、市

長の資金管理団体・新世代政経懇話会へ2022年に50万円の寄附が行われています。

新庁舎建設に関わる企業の役員から市長の資金管理団体への寄附は、「庁舎建設にも政治とカネが動いている」と市民の目に映るのではないのでしょうか。

虚偽記載が疑われる「政治資金パーティー」の収入

2022年10月8日の政治資金パーティーの総収入は1,157万円です。うち、大口購入者2人分180万円を総収入から引くと、残る収入は977万円です。

一方、パーティーに対価の支払いをした人は1,052人、大口の2人を除けば1,050人です。収入は1,050万円になるはずで

すが、実際には977万円で、払っていない人が73人いたこととなります。収入と人数が合いません。

市長は、「パーティー券支払者の欄には、参加人数を記載した」と答弁しました。

しかし、「対価の支払いをしたものの数」が「参加人数」では、虚偽記載になってしまいます。

寄附をした会社役員企業の随意契約、問われる政治倫理

熊本市は、市長の資金管理団体に寄附をしている会社役員の住所にある会社との契約が多々あり、「随意契約」もあります。

随意契約は、市が相手方を特定して契約する、競争によらない契約です。地方自治法は、「自治体の契約は一般競争入札が原則」と規定しています。

市長の資金管理団体に寄附をした住所にある企業と多くの随意契約があることは、自治法の契約の原則に照らしても、市民に疑問を持たれかねません。

熊本市政治倫理条例は、疑念をもたれることも含め守る基準としており、市長の政治資金は政治倫理が問われる問題です。

【控室から】
経済波及効果を考える
いせり栄次
先日、熊本の地下水を守る署名行動の際、署名された方が、地下水がほんとに心配と不安を訴えられ、「TSMC進出でなんかいいことあるんですか？ 渋滞はするし、家賃は上がるし、緑はなくなるし、ほとんど恩恵を感じない」と語られました。
TSMC進出で熊本経済の発展や経済波及効果が声高に叫ばれていますが、住民にとってのメリットはあるのか、疑問を持っていました。そんな中、くまもと地域自治体研究所の「熊本経済の特徴とその位置」というセミナーがあり参加してきました。結論的には、半導体企業集積による企業城下町化、県外大規模小売業支配と商店街の県外チェーン小売業の増加など県内所得の流出構造が続いていくと指摘されました。北九州市に似た構造であり、地場産業の強化と流通情報サービスへの転換の必要性が強調されました。
地元企業と住民生活を応援する経済への転換を求めて頑張ります。

日本共産党
熊本市議会だより
熊本市中央区手取本町1-1
発行：日本共産党熊本市議団
NO. 1417
2025年6月29日号
電話 328-2656
FAX 359-5047
メール：kumamsu@gamma.ocn.ne.jp
HP：共産党 熊本市議団
検索



上野みえこ (中央区)
いせり栄次 (東区)

補聴器購入への助成全国に広がる！ 加齢性難聴の補聴器購入への助成の早期実現を

公的助成実施の自治体ひろがる

政令市での補聴器助成実施状況(今年度予算額と対象者・補助額)

- ・相模原市 400万円(65歳以上、2万円)
- ・新潟市 682.5万円(50~74歳、2.5万円)
- ・静岡市 90万円(65歳以上、3万円)
- ・岡山市 1400万円(65歳以上、住民税非課税、2.5万円)
- ・大阪市 3500万円(65歳以上、2.5万円)

県内の実施自治体

- ・天草市、益城町、長洲町、和水町、芦北町、五木村
(上天草市も実施予定)

日本の補聴器所有率は国際的にも低い

WHOの発表では2050年には4人に1人が難聴になる可能性がある」と公表しています。

我が国の難聴者は推計で1430万人に対し、補聴器所有者は約210万人(15.2%)と極端に低くなっています。

デンマークやイギリス、ドイツ、フランスなどの欧米各国では補聴器所有率が40%を超え

ていることが報告されています。公的医療保険と購入助成が手厚いのが特徴です。

補聴器は1台5万円~50万円と高額のため、経済的負担が大きく、日常生活に不便をおぼえながら購入がすすまない現状です。一刻も早い購入助成が求められます。

補聴器購入助成を求めて

「熊本みみの会」聞こえの学習会開催



6月21日に「熊本みみの会」は3回目の学習会を開き、認定補聴器専門店と言語聴覚士から詳しく話を聞きました。

補聴器専門店ブルーム店長の矢加部さんの分かりやすい補聴器のはなしがあり、加齢性難聴は、「徐々に低下する」「日常生活で支障になりにくい」「外見上はわからない」などの理由で普及が進んでいないこと。自分の聴力レベルを数字で把握することの重要性が話されました。くわみず病院言語聴覚士高峰さんの実演を入れた話もありました。交流では、署名活動の意義が訴えられ、最近補聴器を購入した人などから補聴器体験が発表されました。

署名を広げて助成の早期実現を

議会答弁でも、「聞こえのチェックリスト」による補聴器使用の必要性などを把握し、他都市の助成制度の調査も行うとしています。

「みみの会」では、さらに署名をたくさん集めて、実施に向けて市に要求することとしています。

